

調 査 研 究 結 果

| | 種目 | 発行者 | 教科書名 |
|--|---|-----|--|
| 観 点 | 理科 | 東書 | 新しい理科 3 新しい理科 4 新しい理科 5 新しい理科 6 |
| 取 扱 内 容 | <p>○ 物質・エネルギーについては、「粘土やアルミニウム箔の形を変えて重さを調べる」・「閉じ込めた空気を押して、体積や手応えを調べる」・「食塩やミョウバンが水に溶ける量を調べる」・「ろうそくを燃やし続ける方法を調べる」等の実験や、「ゴムで動く車を作る」・「乾電池で走る車を作る」・「電磁石を利用した鉄の空き缶拾い機を作る」・「折り紙とストローでつり合いを利用したおもちゃを作る」等のものづくり活動を通して、問題を見出す・根拠のある予想や仮説を発想する・予想や仮説を基に、解決の方法を発想する・より妥当な考えをつくりだすといった問題解決の力を養うことができるようになっている。</p> <p>○ 生命・地球については、ハウセンカやピーマンの栽培、「日なたの地面と日陰の地面の温度を調べる」・「動物のからだのつくりと動き方を調べる」・「月の見える位置の変わり方を調べる」・「日没後の月の形と方位を調べる」等の観察、「ヘチマの花粉の働きを調べる」・「水の量を変えて流れる水の働きを調べる」・「吐き出した空気と吸う空気の違いを調べる」等の実験を通して、問題を見出す・根拠のある予想や仮説を発想する・予想や仮説を基に、解決の方法を発想する・より妥当な考えをつくりだすといった問題解決の力や生物を愛護する態度を養うことができるようになっている。</p> <p>○ 主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応については、第3，4学年では「音が伝わるときに、音を伝える物が震えているかについて調べ、音が聞こえなくなった理由について話し合う」・「閉じ込めた水をおして、体積が変わるかについて調べ、空気の体積変化との違いについて話し合う」等、考えを広げたり深めたりする活動が取り上げられている。第5，6学年では、「水の量や温度を変えて、物が水にとける量について調べ、食塩とミョウバンのとけ方の違いについて話し合う」・「てこが水平につり合うときのきまりについて調べ、てこが水平につり合うときの重りの位置関係と重さについて話し合う」等、考えを広げたり深めたりする活動が取り上げられている。</p> | | |
| 内 容 の 程 度 ・ 排 列 、 分 量 等 | <p>○ 内容の構成・排列については、第4学年の単元で既習の学習内容との関連が図られるよう単元を構排成するなど、系統的・発展的に学習できるようになっている。</p> <p>また、北海道にかかわりのある内容については、第6学年で有珠山が噴火する様子や恵庭市の地層・石狩川の上流から下流の様子の写真が掲載されている。</p> <p>○ 内容の分量については、</p> <p>第3学年～ 物質・エネルギーは77ページ、生命・地球は72ページ、資料等は27ページであり、総ページ数は176ページで、前回より約13パーセント増となっている。 (判型はA4判)</p> <p>第4学年～ 物質・エネルギーは68ページ、生命・地球は111ページ、資料等は33ページであり、総ページ数は212ページで、前回より約15パーセント増となっている。 (判型はA4判)</p> <p>第5学年～ 物質・エネルギーは51ページ、生命・地球は101ページ、資料等は28ページであり、総ページ数は180ページで、前回より約7パーセント増となっている。 (判型はA4判)</p> <p>第6学年～ 物質・エネルギーは74ページ、生命・地球は117ページ、資料等は29ページであり、総ページ数は220ページで、前回より約6パーセント増となっている。 (判型はA4判)</p> | | |

| | |
|----------------|--|
| <p>使用上の配慮等</p> | <ul style="list-style-type: none"> ○ コラム「理科のひろば」では、学習内容が社会に生かされていることを紹介し、理科を学ぶ意義をとらえられるようにし（全学年）、児童の学習意欲を高める工夫がなされている。 ○ 特集ページの「私の研究」では、研究のテーマの決め方、調べ方、まとめ方など等を示したり（全学年）、「学んだことを振り返ろう！」では、1年間で学習した内容を振り返りながら学習できるようにしたり（全学年）するなど、児童が主体的に学習に取り組むことができるような工夫がなされている。 ○ 全ての文字に、児童が字形を判別しやすく、読み間違いにくいUD書体を使用するなど、使用上の便宜が図られている。 |
| <p>その他</p> | |

調 査 研 究 結 果

| 観 点 | 種目 | 発行者 | 教科書名 |
|--|---|-----|--|
| | 理科 | 大日本 | たのしい理科 3年 たのしい理科 4年 たのしい理科 5年 たのしい理科 6年 |
| 取 扱 内 容 | <p>○ 物質・エネルギーについては、「アルミニウムや鉄などの種類の違う物の重さを調べる」・「えた力の大きさと空気の体積や手応えの関係を調べる」・「食塩とミョウバンが水に溶ける量を調べる」・「燃やす前と燃やした後の空気をいろいろな方法で調べる」等の実験や、「ゴムで動く車を作る」・「電気の働きで回る送風機を作る」・「電磁石を利用したチョウのおもちゃを作る」・「紙とストローでつり合いを利用したおもちゃを作る」等のものづくりの活動を通して、問題を見出す・根拠のある予想や仮説を発想する・予想や仮説を基に、解決の方法を発想する・より妥当な考えをつくり出すといった問題解決の力を養うことができるようになっている。</p> <p>○ 生命・地球については、ハウセンカやヒマワリの栽培、「時刻を変えて影の位置と太陽の位置を比べながら調べる」・「骨のつくりと腕の動きの関係を調べる」・「星の見える位置や並び方の変化と時間の関係を調べる」等の観察、「受粉させた花とさせなかった花の変化を調べる」・「流れる水の量と働きを調べる」・「吸う空気と吐いた空気の違いを調べる」・「月の形と太陽の位置の関係を調べる」等の実験を通して、問題を見出す・根拠のある予想や仮説を発想する・予想や仮説を基に、解決の方法を発想する・より妥当な考えをつくり出すといった問題解決の力や生物を愛護する態度・生命を尊重する態度を養うことができるようになっている。</p> <p>○ 主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応については、第3, 4学年では「どのようなものが電気を通すのかについて調べ、電気を通すものと通さないものに分けたときに言えることについて話し合う」・「とじこめた空気にか力を加えたときの空気の体積や手ごたえについて調べ、加えた力の大きさと空気の体積や手ごたえの関係について話し合う」等、考えを広げたり深めたりする活動が取り上げられている。第5, 6学年では「電磁石の極を変えるにはどのようにすればよいかについて調べ、電流の向きと極のでき方の関係について話し合う」・「窒素、酸素、二酸化炭素にはものを燃やす働きがあるかについて調べ、空気中でもものが燃える理由について話し合う」等、考えを広げたり深めたりする活動が取り上げられている。</p> | | |
| 内 容 の 程 度 ・ 排 列 、 分 量 等 | <p>○ 内容の構成・排列については、第4学年の単元において、身近に見られる現象を位置付け、日常生活と学習内容の関連が図られるよう単元を構成するなど、系統的・発展的に学習できるようになっている。</p> <p>また、北海道にかかわりのある内容については、第5学年で別海町で見られた巻積雲の写真を掲載している。</p> <p>○ 内容の分量については、</p> <p>第3学年～ 物質・エネルギーは86ページ、生命・地球は82ページ、資料等は24ページであり、総ページ数は192ページで、前回より約37パーセント増となっている。 (判型はA B判)</p> <p>第4学年～ 物質・エネルギーは78ページ、生命・地球は118ページ、資料等は26ページであり、総ページ数は222ページで、前回より約26パーセント増となっている。 (判型はA B判)</p> <p>第5学年～ 物質・エネルギーは52ページ、生命・地球は110ページ、資料等は28ページであり、総ページ数は190ページで、前回より約13パーセント増となっている。 (判型はA B判)</p> <p>第6学年～ 物質・エネルギーは74ページ、生命・地球は116ページ、資料等は32ページであり、総ページ数は222ページで、前回より約18パーセント増となっている。 (判型はA B判)</p> | | |

| | |
|----------------|--|
| <p>使用上の配慮等</p> | <ul style="list-style-type: none"> ○ コラム「りかのたまてばこ」では、学習内容が社会に活かされてることを紹介し、理科を学ぶ意義をとらえられるよう（全学年）、児童の学習意欲を高める工夫がなされている。 ○ 特集ページの「自由研究」では、研究のテーマの決め方、計画の立て方、まとめ方などを示したり（全学年）、「まとめ」では、1年間で学習した内容を振り返りながら学習できるようにしたり（全学年）するなど、児童が主体的に学習に取り組むことができるような工夫がなされている。 ○ 全ての文字に、児童が字形を判別しやすく、読み間違いにくいUD書体を使用するなど、使用上の便宜が図られている。 |
| <p>その他</p> | |

調 査 研 究 結 果

| | 種目 | 発行者 | 教科書名 |
|--|---|-----|--|
| 観 点 | 理科 | 学図 | みんなと学ぶ 小学校 理科 3年 みんなと学ぶ 小学校 理科 4年 みんなと学ぶ 小学校 理科 5年 みんなと学ぶ 小学校 理科 6年 |
| 取 扱 内 容 | <p>○ 物質・エネルギーについては、「粘土の置き方や形を変えて重さを調べる」・「温度による空気の体積の変化を調べる」・「食塩とミョウバンが水に溶ける量を調べる」・「ろうそくが燃え続けるにはどうすればよいかを調べる」等の実験、「ゴムの力で走る車を作る」・「乾電池で走る車を作る」・「電磁石を利用したコイルモーターを作る」・「てこの働きを利用した『郵便物専用』はかりを作る」等のものづくりの活動を通して、問題を見出す・根拠のある予想や仮説を発想する・予想や仮説を基に、解決の方法を発想する・より妥当な考えをつくり出すといった問題解決の力を養うことができるようになっている。</p> <p>○ 生命・地球については、「ハウセンカやヒマワリの栽培」・「自分の腕や手のつくりを調べる」・「ヘチマの花粉の働きを調べる」・「吐き出した空気と吸い込む空気の違いを調べる」等の観察、「影の向きと太陽の見える方向を調べる観察」・「朝に見える月の動きを調べる」・「流れる水の働きを調べる」・「月の形の変化と太陽の関係を調べる」等の実験を通して問題を見出す・根拠のある予想や仮説を発想する・予想や仮説を基に、解決する方法を発想する・より妥当な考えをつくり出すといった問題解決の力や生物を愛護する態度を養うことができるようになっている。</p> <p>○ 主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応については、第3・4学年では「風車の物を持ち上げる力を大きくする方法について調べ、風の強さによって風車の物を持ち上げる力はどのように変わったかについて話し合う」・「乾電池の向きを変えると、モーターの回る向きが変わる理由について調べ、回路を流れる電流の向きについて話し合う」等、考えを広げたり深めたりする活動が取り上げられている。第5・6学年では、「ふりこが1往復する時間は何によって変わるのかについて調べ、ふりこが1往復する時間は、ふりこの長さや重りの重さに関係しているかについて話し合う」・「ろうそくが燃える前と燃えた後の空気では何が違うのかについて調べ、ろうそくが燃えた後の空気では、石灰水が白く濁った理由について話し合う」等、考えを広げたり深めたりする活動が取り上げられている。</p> | | |
| 内 容 の 程 度 ・ 排 列 、 分 量 等 | <p>○ 内容の構成・排列については、第4学年の単元で既習の学習内容との関連が図られるよう単元を構成するなど、系統的・発展的に学習できるようになっている。</p> <p>また、北海道にかかわりある内容については、第6学年の「大地のつくりと変化」では、むかわ町のハイドロサウルスのなかまの骨格、「火山の噴火と地震」では、有珠山の噴火やハザードマップが資料として取り上げられている。</p> <p>○ 内容の分量については、次のようになっている。</p> <p>第3学年～物質・エネルギーは83ページ、生命・地球は74ページ、資料等は23ページであり、総ページ数は180ページで、前回より約29パーセント増となっている。（判型はA B判）</p> <p>第4学年～物質・エネルギーは72ページ、生命・地球は109ページ、資料等は23ページであり、総ページ数は204ページで、前回より約16パーセント増となっている。（判型はA B判）</p> <p>第5学年～物質・エネルギーは47ページ、生命・地球は118ページ、資料等は27ページであり、総ページ数は192ページで、前回より約12パーセント増となっている。（判型はA B判）</p> <p>第6学年～物質・エネルギーは91ページ、生命・地球は114ページ、資料等は23ページであり、総ページ数は228ページで、前回より約6パーセント増となっている。（判型はA B判）</p> | | |

| | |
|----------------|--|
| <p>使用上の配慮等</p> | <ul style="list-style-type: none"> ○ コラム「資料」では、学習内容が日常生活に生かされていることを紹介し、理科を学ぶ意義をとらえられるようにしたり（全学年）、北海道の有珠山が噴火する様子の写真を掲載したり（第6学年）するなど、児童の学習意欲を高める工夫がなされている。 ○ 特集ページの「わたしの自由研究」では、研究のテーマの決め方、調べ方、まとめ方などを示したり（全学年）、「学んだこと」では、1年間で学習した内容を振り返りながら学習できるようにしたり（全学年）するなど、児童が主体的に学習に取り組むことができるような工夫がなされている。 ○ 全ての文字に、児童が字形を判断しやすく、読み間違いにくいUD書体を使用するなど、使用上の便宜が図られている。 |
| <p>その他</p> | |

調 査 研 究 結 果

| | 種目 | 発行者 | 教科書名 | | | | | | | | | | | | |
|--|---|-----|--|---------|------|---|--------|------|---|--------|------|---|--------|------|---|
| 観 点 | 理科 | 教出 | <table border="0"> <tr> <td>みらいをひらく</td> <td>小学理科</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>未来をひらく</td> <td>小学理科</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>未来をひらく</td> <td>小学理科</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>未来をひらく</td> <td>小学理科</td> <td>6</td> </tr> </table> | みらいをひらく | 小学理科 | 3 | 未来をひらく | 小学理科 | 4 | 未来をひらく | 小学理科 | 5 | 未来をひらく | 小学理科 | 6 |
| みらいをひらく | 小学理科 | 3 | | | | | | | | | | | | | |
| 未来をひらく | 小学理科 | 4 | | | | | | | | | | | | | |
| 未来をひらく | 小学理科 | 5 | | | | | | | | | | | | | |
| 未来をひらく | 小学理科 | 6 | | | | | | | | | | | | | |
| 取 扱 内 容 | <p>○ 物質・エネルギーについては、「粘土や新聞紙の形を変えて重さを調べる」・「閉じ込めた空気を暖めたり冷やしたりして体積の変化を調べる」・「食塩が水に溶ける限度について調べる」「ろうそくの燃焼前後の空気に含まれる酸素などの量を調べる」等の実験や、「風で動くほかけ車を作る」・「電気の働きで走るプロペラカーを作る」・「電磁石の性質を利用した電池チェッカーを作る」「乾電池をおもりにしたさおばかりを作る」等のものづくりなどの活動を通して、問題を見出す・根拠のある予想や仮説を発想する・予想や仮説を基に、解決の方法を発想する・より妥当な考えをつくり出すといった問題解決の力を養うことができるようになっている。</p> <p>○ 生命・地球については、「ハウセンカやヒマワリの栽培」・「脚を動かすときの筋肉の様子を調べる」・「花粉をつけた花の実のでき方を調べる」・「吸い込む空気と吐き出した息の違いを調べる」等の観察、「日なたと日陰の地面の温度を調べる」・「腕や足を動かすときの筋肉の様子を観察、午後に見える半月の位置の変化を調べる」・「流す水の量を変えて流れる水の働きを調べる」・「実験、月の光っている側に太陽があるかを調べる」等の実験を通して問題を見出す・根拠のある予想や仮説を発想する・予想や仮説を基に、解決する方法を発想する・より妥当な考えをつくり出すといった問題解決の力や生物を愛護する態度を養うことができるようになっている。</p> <p>○ 主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応については、第3・4学年では「乾電池、豆電球、導線をどのようにつなぐと、明かりがつくのかについて調べ、明かりがついたときのつなぎ方とつかなかったときのつなぎ方について話し合う」・「乾電池2個のつなぎ方と回路に流れる電流の大きさについて調べ、直列つなぎのときと並列つなぎのときの回路に流れる電流の大きさについて話し合う」等、考えを広げたり深めたりする活動が取り上げられている。第5・6学年では「回路に流す電流の向きを変えると、電磁石は、極が入れかわるのかについて調べ、電流の向きと電磁石の極との関係について話し合う」・「窒素、酸素、二酸化炭素のうち、どの気体にもものを燃やす働きがあるのかについて調べ、ものを燃やす働きがある気体について話し合う」等、考えを広げたり深めたりする活動が取り上げられている。</p> | | | | | | | | | | | | | | |
| 内 容 の 程 度 ・ 排 列 、 分 量 等 | <p>○ 内容の構成・排列については、第4学年の単元で既習の学習内容との関連が図られるよう季節と生き物についての学習を進められるよう単元を構成するなど、系統的・発展的に学習できるようになっている。</p> <p>また、北海道にかかわりある内容については、第6学年の「土地のつくり」では、むかわ町の恐竜の化石や調査の様子、壮瞥町の昭和新山や三松正夫記念館、「地震や火山と災害」では、有珠山の噴火やハザードマップが資料として取り上げられている。</p> <p>○ 内容の分量については、次のようになっている。</p> <p>第3学年～物質・エネルギーは86ページ、生命・地球は92ページ、資料等は22ページであり、総ページ数は200ページで、前回より約11パーセント増となっている。（判型はA4変型判）</p> <p>第4学年～物質・エネルギーは80ページ、生命・地球は132ページ、資料等は28ページであり、総ページ数は240ページで、前回より約15パーセント増となっている。（判型はA4変型判）</p> <p>第5学年～物質・エネルギーは68ページ、生命・地球は134ページ、資料等は26ページであり、総ページ数は228ページで、前回より約16パーセント増となっている。（判型はA4変型判）</p> <p>第6学年～物質・エネルギーは84ページ、生命・地球は126ページ、資料等は26ページであり、総ページ数は236ページで、前回より約13パーセント増となっている。（判型はA</p> | | | | | | | | | | | | | | |

| | |
|---------|--|
| | 4 変型判) |
| 使用上の配慮等 | <ul style="list-style-type: none"> ○ コラム「科学のまど」では、学んだことと関連した身の回りの話題を紹介し、理科を学ぶ意義を実感できるようにしたり（全学年）、豊平川に鮭の稚魚を放流する上小学校の取組の写真を掲載したり（第5学年）するなど、児童の学習意欲を高める工夫がなされている。 ○ 特集ページの「わたしの研究」では、研究のテーマの決め方、調べ方、まとめ方等などを示したり（全学年）、「学んだこと」では、1年間で学習した内容を振り返りながら学習できるようにしたり（全学年）するなど、児童が主体的に学習に取り組むことができるような工夫がなされている。 ○ 全ての文字に、児童が字形を判別しやすく、読み間違いにくいUD書体を使用するなど、使用上の便宜が図られている |
| その他 | |

調 査 研 究 結 果

| 観 点 | 種目 | 発行者 | 教科書名 |
|--|---|-----|--|
| | 理科 | 信教 | 楽しい理科 3年 楽しい理科 4年 楽しい理科 5年 楽しい理科 6年 |
| 取 扱 内 容 | <p>○ 物質・エネルギーについては、「鉛筆などの身の回りの物の重さを調べる」・「空気を温めたり冷やしたりしたときの体積の変化を調べる」・「食塩とミョウバンが水に溶ける量を調べる」・「ろうそくが燃え続けるときの空気の動きを調べる」等の実験や、「風の力で動く車を作る」・「モーターで動く車を作る」・「電磁石を利用したクレーンを作る」・「折り紙とストローでつり合いを利用したおもちゃを作る」等のものづくり活動を通して、根拠のある予想・仮説を発想する・解決の方法を発想する・より妥当な考えをつくりだすといった問題解決の力を養うことができるようになっている。</p> <p>○ 生命・地球については、ハウセンカやヒマワリの栽培、「影の向きと太陽の位置との関係を調べる」・「腕を動かしたときの筋肉の様子を調べる」・「月の形や位置の変わり方を調べる」「月の形と太陽の位置を調べる」等の観察、「ズッキーニの花粉の働きを調べる」・「斜面に水を流して地面の様子を調べる」・「人の吸う空気と吐き出した空気の違いを調べる」等の実験を通して、問題を見出す・根拠のある予想や仮説を発想する・予想や仮説を基に、解決の方法を発想する・より妥当な考えをつくりだすといった問題解決の力や生物を愛護・生命を尊重する態度を養うことができるようになっている。</p> <p>○ 主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応については、第3，4学年では「虫めがねで集めた日光の明るさや暖かさについて調べ、明るいところを大きくしたり小さくしたりしたときの違いについて話し合う」・「水は、温度によって体積が変わるのかについて調べ、水を温めたり冷やしたりしたときの体積の変化について話し合う」等、考えを広げたり深めたりする活動が取り上げられている。第5，6学年では、「電磁石の強さを、強くするにはどうしたらいいかについて調べ、電流の大きさや導線の巻き数と、電磁石の強さの関係について話し合う」・「支点から重りをつるすところまでの距離とてこの傾きについて調べ、てこに加える力の位置を変えたときの手ごたえの違いについて話し合う」等、考えを広げたり深めたりする活動が取り上げられている。</p> | | |
| 内 容 の 程 度 ・ 排 列 、 分 量 等 | <p>○ 内容の構成・排列については、第4学年の単元において、身近に見られる現象を位置付け、日常生活と学習内容の関連が図られるよう単元を構成するなど、系統的・発展的に学習できるようになっている。</p> <p>また、北海道にかかわりのある内容については、第4学年で旭川市の冬の最低気温のデータが取り上げられている。</p> <p>○ 内容の分量については、</p> <p>第3学年～ 物質・エネルギーは79ページ、生命・地球は71ページ、資料等は12ページであり、総ページ数は162ページで、前回より約4パーセント増となっている。 (判型はA B判)</p> <p>第4学年～ 物質・エネルギーは58ページ、生命・地球は117ページ、資料等は11ページであり、総ページ数は186ページで、前回より約1パーセント増となっている。 (判型はA B判)</p> <p>第5学年～ 物質・エネルギーは49ページ、生命・地球は92ページ、資料等は11ページであり、総ページ数は152ページで、前回より約4パーセント減となっている。 (判型はA B判)</p> <p>第6学年～ 物質・エネルギーは72ページ、生命・地球は99ページ、資料等は9ページであり、総ページ数は180ページで、前回より約2パーセント増となっている。 (判型はA B判)</p> | | |

| | |
|--|--|
| <p>使 用 上 の 配 慮 等</p> | <ul style="list-style-type: none"> ○ コラム「しりょう」では、学習内容と日常生活とのかかわりを紹介し（全学年）、理科を学ぶ意義をとらえられるよう、児童の学習意欲を高める工夫がなされている。 ○ 特集ページの「やってみよう自由研究」では、研究のテーマの決め方、計画の立て方、まとめ方などを示したり（全学年）、「1年間の学習」では、1年間で学習する内容を見通して学習することができるようにしたり（全学年）するなど、児童が主体的に学習に取り組むことができるような工夫がなされている。 ○ 全ての文字に、児童が字形を判別しやすく、読み間違いにくいUD書体を使用するなど、使用上の便宜が図られている。 |
| <p>そ の 他</p> | |

調 査 研 究 結 果

| | 種目 | 発行者 | 教科書名 |
|--|---|-----|--|
| 観 点 | 理科 | 啓林館 | わくわく理科 3 わくわく理科 4 わくわく理科 5 わくわく理科 6 |
| 取 扱 内 容 | <p>○ 物質・エネルギーについては、「粘土をいろいろな形に変えて重さを調べる」・「閉じ込めた空気の体積や手応えを調べる」・「食塩とミョウバンが水に溶ける量を調べる」・「物を燃やす前と後の空気の違いを調べる」等の実験や、「ゴムで動く車を作る」・「電気の働きで動く扇風機を作る」・「電磁石を利用したコイルモーターを作る」・「てこの働きを利用したさおばかりを作る」等のものづくり活動を通して、問題を見出す・根拠のある予想や仮説を発想する・予想や仮説を基に、解決の方法を発想する・より妥当な考えをつくりだすといった問題解決の力を養うことができるようになっている。</p> <p>○ 生命・地球については、「ハウセンカやマリーゴールド」の栽培、「日なたと日陰の地面の温度を調べる」・「自分の体を触って体の中で曲げられるところを調べる」・「星の位置や並び方」等の観察、「ヘチマの受粉と実のでき方を調べる」・「流れる水と地面の様子を調べる」等の実験を通して、問題を見出す・根拠のある予想や仮説を発想する・予想や仮説を基に、解決の方法を発想する・より妥当な考えをつくりだすといった問題解決の力や生物を愛護する態度を養うことができるようになっている。</p> <p>○ 主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応については、第3, 4学年では、「ゴムを伸ばす長さや車が動く距離について調べ、ゴムを伸ばす長さや、ものの動きについて話し合う」・「ビーカーの中の水の温まり方について調べ、温まった水の動きからビーカーの中の水が温まる順序について話し合う」等、考えを広げたり深めたりする活動が取り上げられている。第5, 6学年では、「水の量と物が溶ける量について調べ、水の量を2倍にすると、水に溶ける物の量も2倍になることについて話し合う」・「金属にうすい塩酸を加えたときの変化について調べ、塩酸には、金属を溶かす働きがあることについて話し合う」等、考えを広げたり深めたりする活動が取り上げられている。</p> | | |
| 内 容 の 程 度 ・ 排 列 、 分 量 等 | <p>○ 内容の構成・排列については、第4学年の単元で既習の学習内容との関連が図られるよう単元を構成するなど、系統的・発展的に学習できるようになっている。</p> <p>また、北海道にかかわりのある内容については、第6学年で、有珠山の噴火や昭和神山の火山活動、さらに火山活動でできた湖として洞爺湖が資料として取り上げられている。</p> <p>○ 内容の分量については、次のようになっている。</p> <p>第3学年～物質・エネルギーは76ページ、生命・地球は80ページ、資料等は23ページであり、総ページ数は179ページで、前回より約13パーセント減となっている。 (判型はA B判)</p> <p>第4学年～物質・エネルギーは82ページ、生命・地球は92ページ、資料等は29ページであり、総ページ数は203ページで、前回より約13パーセント減となっている。 (判型はA B判)</p> <p>第5学年～物質・エネルギーは54ページ、生命・地球は106ページ、資料等は35ページであり、総ページ数は195ページで、前回より約19パーセント減となっている。 (判型はA B判)</p> <p>第6学年～物質・エネルギーは71ページ、生命・地球は113ページ、資料等は35ページであり、総ページ数は219ページで、前回より約15パーセント減となっている。 (判型はA B判)</p> | | |

| | |
|---------|---|
| 使用上の配慮等 | <p>○コラム「理科の広場」では、身近な生活と関連した話題を紹介し、理科を学習する意義を実感できるようにし（全学年）、児童の学習意欲を高める工夫がなされている。</p> <p>○特集ページの「自由研究」では、研究のテーマの決め方、調べ方、まとめ方などを示したり（全学年）、「理科を振り返ろう～理科の見方～」では、1年間で学習した内容を振り返りながら学習できるようにしたり（全学年）するなど、児童が主体的に学習に取り組むことができるような工夫がなされている。</p> <p>○全ての文字に、児童が字形を判別しやすく、読み間違いにくいUD書体を使用するなど、使用上の便宜が図られている。</p> |
| その他 | |